

＜北の便りー1, 469ー＞2017. 12. 24版

3360地区チェンライ RC パスト会長便り

幸せな気持で奉仕を終えられる 皆さん、メリー・クリスマスは如何ですか。私はチェンライ最後の昼食を23日市内のウエインホテルで摂った。帰国前で今年の北タイ・アカ族子供奉仕も終えた解放感も手伝い、美味しく楽しく食した。その食べ終えたお皿を下ろす彼女は、里親支援するワッサナーではないか。今は料理専門学校に通う。彼女はアカ族子供寮「夢の家」にいた。母親は病弱で、1人で4人の子供を育てる。彼女には進学は困難だった。「はらだ先生、私は手に職を付け、母と3人の兄弟を面倒見たいです」と泣いて頼まれた。今は支援でその夢を手伝う。学校が終わればホテルの皿洗いで、時給80円貰い家族の生活を支えていると言う。後に続く「弟にも学ばせたい」と長女らしい。アカ族はクリスチャンだ。そんな苦勞をする彼女にサンタクロースは来るのだろうか。私になってあげよう。私はホテルに事情を話し、彼女をツリーの下で私にできる目一杯の支援金を手渡した。突然のプレゼントに彼女は狐に、いやサンタクロースに摘ままれた思いだろう。アカ族子供奉仕の最後が1日伸びただけで、私は一年間の「奉仕の幸せ」が込み上げてきた。彼女は私に素晴らしい笑顔を見せた。ワッサナーさん、ありがとう。私はとても幸せな気分で、今年の奉仕が終えますよ。

